特別支援教育４・５・６学年　算数科学習指導案

指導者

Ⅰ　単元名

正しくお金を支払おう［金銭］

Ⅱ　単元について

【単元設定の理由】

本学級は，４年生２名（M，Ｎ），５年生２名（Ｐ，Ｑ），６年生２名（R，S）の計６名で編成されている。

本学級に在籍する子どもたちの金銭（実務）にかかわる実態について，算数科「指導内容表」及び，担任による日常観察から，４月に次のように捉えた。

子ども	金銭領域（実務）にかかわる様子
A（4 年）	230 円までの金額で，100 円，50 円，10 円を組み合わせて，合計金額を数えることができる。
B（4 年）	140 円までの金額で，100 円，10 円を組み合わせて，合計金額を数えることができる。
C（5 年）	500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，合計金額を数えることができる。
D（5 年）	9999 円までの金額で，5000 円，1000 円，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，合計金額を数えることができる。
E（6 年）	999 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，合計金額を数えることができる。
F（6 年）	金種毎に区分けされた容器を使用することで，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，合計金額を数えることができる。

これを受けて，金銭領域（実務）にかかわる年間目標，並びに，本単元終了時まで身に付けることをめざす力を次のように設定した。

子ども	金銭領域にかかわる年間目標，並びに，本単元終了時までに身に付けることをめざす力
A	499 円までの金額で，100 円，50 円，10 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。
B	499 円までの金額で，100 円，10 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。
C	買い物の際，2 つ以上の硬貨を出して，おつりをもらう場合のお金の出し方を理解し，おつりを求めることができる。
D	95%までの割引金額とその売値を求めることができる。
E	買い物の際，2 つ以上の硬貨を出して，おつりをもらう場合のお金の出し方を理解し，おつりを求めることができる。
F	999 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。

金銭（実務）は，日常生活において買い物をする，交通機関を利用する，有料の公共施設を利用するといった社会自立の面からも必要不可欠な内容である。しかし，同時に難しい内容でもある。これは，金銭処理の学習が，数の概念をはじめ，金種による金額の違い，各金種等の等価関係，合計やおつりを求めるための四則計算など，多くの学習の内容が含まれるとともに，それらが相互に関連し合うためである。

硬貨の合計金額を求めたり，おつりを伴うお金の出し方を考えたりする活動をとおして，子どもたちの一人一人の金銭処理能力を高めることができると考える。さらに，この学習により，生活単元学習での交通機関の利用，料金の支払いに関わる活動が主体的に行われ，より充実した活動になるとともに，将来的にも社会生活を送る上で必要とする力を身に付けていくことができると考えたため，本単元を設定した。

【研究に関わって】

１　生活単元学習と関連させた学習活動

７月に生活単元学習「こうないがっしゅくをしよう」があり，子どもたちは，２泊３日のさまざまな活動を楽しみにしている。そこで，生活単元学習との関連を図り，校内合宿での調理材料やおやつの購入へ向けて正しく速く支払う必要感や明確な目的意識をもつことができるようにする。そして，学習したことを活かして正しく速く支払うことを練習・習熟の場とする。

これらの活動を支える算数科における基礎的な知識と技能を身に付けるための学習として本単元を設定した。

＜算数科＞

・金種の弁別をし，硬貨や紙幣の名称を知る。
・単一硬貨を使っての合計金額を数える。
・硬貨が各種混じった中で，合計金額を数える。
・おつりを伴う正しいお金の出し方を知る。
・複数の品物の合計金額を概算で見積もることができる。
・定価，売値，割引の意味を知るとともに，割引後の値段を求める。

必要感
目的意識

使ってみる
試してみる

＜生活単元学習＞

・単一硬貨で支払う。
・各種硬貨を混ぜて，支払う。
・硬貨で支払い，おつりをもらう。
・品物を，１０円単位や，１００円単位で切り上げて支払い，おつりをもらう。
・定価の値引き金額を支払う。

２　一人一人の学習内容の系統的把握

単元を構成するに当たっては，子どもたちの実態を踏まえながら学習内容に無理がなくステップアップするように配慮する。具体的には，一人一人の課題に応じて以下の表のような段階化した指導をする。

子ども	前単元までの到達内容	本単元の目標		次にめざす力
		第１次	第２次	
A	・100 円，50 円，10 円，1 円を組み合わせた 294 円までの金額を数えることができる。	・299 円までの金額で，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。	・499 円までの金額で，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。 金銭（実務）領域・指導項目Ⅳ	・1000 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，1 円，5 円を組み合わせてお金を出すことができる。
B	・100 円，10 円を組み合わせた 230 円までの金額で数えることができる。	・490 円までの金額で，100 円，10 円を組み合わせてお金を出すことができる。	・499 円までの金額で，100 円，10 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。 金銭（実務）領域・指導項目Ⅳ	・499 円までの金額で，100 円，50 円，10 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。
C	・999 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて合計金額を数えることができる。（5 円，50 円を 2 枚使用）	・１つの硬貨を出しておつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（６円→１０円）	・紙幣や，紙幣と硬貨を組み合わせて出して，おつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（1150 円→1200 円） 金銭（実務）領域・指導項目Ⅴ	・複数の定価を違う単位で切り上げた概数で表すとともに，その合計を求めることができる。
D	・　複数の品物の値段と違う単位で切り上げた概数で表すとともに，その合計を求めることができる。	・割合と百分率の概念を理解することができる。	・定価の 95%までの割引金額とその売値を求めることができる。 金銭（実務）領域・指導項目Ⅶ	・%を使わない（〇割引）場合の割引や割増などに関わる値段を求めることができる。
E	・999 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて合計金額を数えることができる。（5 円，50 円を 2 枚使用）	・１つの硬貨を出しておつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（６円→１０円）	・紙幣や，紙幣と硬貨を組み合わせて出して，おつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（1150 円→1200 円） 金銭（実務）領域・指導項目Ⅴ	・複数の定価を違う単位で切り上げた概数で表すとともに，その合計を求めることができる。
F	・金種を区分けした状態から 100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせた 499 円までの金額で数えることができる。	・499 円までの金額で 100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。	・999 円までの金額で 500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。 金銭（実務）領域・指導項目Ⅳ	・1000 円までの金額で 500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を自由に組み合わせてお金を出すことができる。

Ⅲ　学習指導計画（１２時間）※本時は第７時

		各　時　間　の　目　標					
次	時	A	B	F	C	E	D
一	1	校内合宿で調理学習することを確認し，その材料を自分たちで買いに行くためにお金の支払い方や数え方をそれぞれのめあてで学習していく必要があることに気付くことができる。					
	2	・119 円までの金額で，100 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。（100 円，10 円固定）	・290 円までの金額で 100 円と 10 円を組み合わせて，お金を出すことができる。（100 円は 2 個に限定）	・299 円までの金額で，100 円，50 円，10 円 5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・１つの硬貨を出しておつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（400 円→500 円）		・割合の意味を理解できる。 ・割合は、比較量と基準量で求められることを理解できる。
	3	・199 円までの金額で，100 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。（100 円，9 円固定）	・390 円までの金額で 100 円と 10 円を組み合わせて，お金を出すことができる。（100 円は 3 個に限定）	・399 円までの金額で，100 円，50 円，10 円 5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・１つの硬貨を出しておつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（90 円→100 円）		・百分率の意味とその表し方を理解できる。 ・歩合について理解できる。
	4	・199 円までの金額で，100 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。（100 円固定）	・490 円までの金額で 100 円と 10 円を組み合わせて，お金を出すことができる。（100 円は 4 個に限定）	・499 円までの金額で，100 円，50 円，10 円 5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・１つの硬貨を出しておつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（40 円→50 円）		・比較量は基準量と割合から求められることを理解できる。
	5	・299 円までの金額で，100 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・490 円までの金額で 100 円と 10 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・599 円までの金額で，100 円，50 円，10 円 5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・１つの硬貨を出しておつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（6 円→10 円）		・基準量は，比較量と割合から求められることを理解できる。
	6	一次で学習したことの練習・習熟を図ることができる。					
二	7	・199 円までの金額で，100 円，50 円 10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・199 円までの金額で 100 円と 10 円と 1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・699 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・２つもしくは，２つ以上の硬貨を出して，おつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（１５円→２０円）		・定価の 90%までの金額を求めることができる。（10%単位）
	8	・ 299 円までの金額で，100 円，50 円 10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・299 円までの金額で 100 円と 10 円と 1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・799 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・２つもしくは，２つ以上の硬貨を出して，おつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（１７２円→１８０円）		・定価の 95%までの金額を求めることができる。（5%単位）

	9	・399 円までの金額で，100 円，50 円 10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・399 円までの金額で 100 円と 10 円と 1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・899 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・紙幣や，紙幣と硬貨を組み合わせて出して，おつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（６００円→１０００円）	・定価の 90%までの割引金額とその売値を求めることができる。（10％単位）
	１０	・499 円までの金額で，100 円，50 円 10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・499 円までの金額で 100 円と 10 円と 1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・999 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。	・紙幣や，紙幣と硬貨を組み合わせて出して，おつりをもらう場合の出し方を理解し，おつりを受け取ることができる。（１１５０円→１２００円）	・定価の 95%までの割引金額とその売値を求めることができる。（5%単位）
	１１	二次で学習したことの練習・習熟を図ることができる。				

Ⅳ　本時の学習

１　ねらい

「Ⅳ　学習指導計画」の第７時を参照

２　展開

学習活動	形態	◎主な学習活動		○個の学習活動		★支援	
		A	B	F	C	E	D
１　前時の学習内容の確認 (5 分)	集団	**◎前時までに，学習したプリントや具体物を提示し，確認する。**					
		○299 円までの金額で，100 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，合計金額を出す学習であったことを確認する。	○490 円までの金額で，100 円，10 円を組み合わせて，合計金額を出す学習であったことを確認する。	○599 円までの金額で，100 円，50 円 10 円，5 円，1 円を組み合わせて，合計金額を出す学習であったことを確認する。	○定価が６円のとき１０円を出して，おつりをもらう学習であったことを確認する。		○基準量は，比較量と割合から求めることができたことを確認する。
		★前時と同じプリントを提示することにより，定着を図る。	★復唱したり，視線を向けたりすることにより注意が逸れないようにする。	★前時と同じプリントを提示することにより，定着を図る。	★前時と同じプリントを提示することにより，定着を図る。	★前時と同じプリントを提示することにより，定着を図る。	★本時の学習に対し集中して取り組むことができるよう学びの姿勢を確認する。
２　新しい学習内容での学習	集団	**◎校内合宿で買い物をするために，学習すればよいことを確認する。** ○目的意識を持ちながら，学習活動ができるように意欲付けを図る。					

（1）学習内容の把握 （10 分）		○199 円までの金額で，100 円，50 円 10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出す学習であることが分かる。 ★50 円を新たに組み合わせることを板書することにより，前時の学習を活用して，学習に取り組むことができるようにする。	○199 円までの金額で 100 円，10 円，1 円を組み合わせて，お金を出す学習であることが分かる。 ★1 円を新たに組み合わせることを板書することにより，前時の学習を活用して，学習に取り組むことができるようにする。	○699 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出す学習であることが分かる。 ★色が付いた 50 円，5 円の模型を板書することにより，50 円と 5 円の違いを意識して，学習に取り組むことができるようにする。	○定価が 15 円のときのおつりをもらうお金の出し方の学習であることが分かる。 ★10 円の位に目を向けるように促すことにより，10 円単位に 1 をたして，代金を求められるようにする。 ★10 円の位に目を向けるように促すことにより，10 円単位に 1 をたして，代金を求められるようにする。	○定価の 90%までの金額を求めるこ学習であることが分かる。 ★前時までの学習をもとに，%を小数に直すことを板書することにより，学習に取り組むことができるようにする。
（2）学習内容の理解 （15 分）	個別	**◎それぞれの学習内容によるプリントに取り組む。** ○それぞれに応じスモールステップによる学習となるプリントを準備する。 ○199 円までの金額で，100 円，50 円 10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出す。 ★100 円，50 円 10 円，5 円，1 円の硬貨が書かれたプリントに色をぬる活動を通して，定着を図る。	○199 円までの金額で 100 円，10 円，1 円を組み合わせて，お金を出す。 ★100 円，10 円，1 円の硬貨が書かれたプリントに色をぬる活動を通して，定着を図る。	○699 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出す。 ★100 円，50 円 10 円，5 円，1 円の硬貨が書かれたプリントに色をぬる活動を通して，定着を図る。金額が多いので，1 枚 1 問のプリントを使う。	○定価が 15 円のときの 20 円を出してお金を出す。 ★問題数を多くし，取り組ませることにより確実に理解できるようにする。	○定価の 90%までの金額を求める。 ★電卓を使用することで，問題に多く取り組むことにより，確実に理解できるようにする。
(3) 発表 （5 分）	集団	**◎それぞれのプリントを使って学習したことを交流する。** ★友達の学習が未習のため，正誤評価できない子どもについては，今後の学習への見通しの一助となるよう最後まで聞く姿勢や，意識するように促す。				
3　まとめの学習 **(1) 習熟的な活動**	個別 ・ 集団	**◎買い物ゲームに取り組むことにより，学習した内容を振り返る。** ☆人とのかかわりの中で学び，自分の学びの価値を感じ取ることができるように，活動を組む。				

（7分）		★買い物ゲームで定価 199 円の品物を買うことで，5 円や 50 円を使うと便利であることに気付くことができるようにする。	★買い物ゲームで定価 199 円の品物を買うことで，1 円を使えたことを賞賛し，喜びを感じることができるようにする。	★買い物ゲームで定価 699 円の品物を買うことで，金額が多くても，50 円 5 円を正しく使えたことを賞賛し喜びを感じることができるようにする。	★買い物ゲームで，定価が 15 円のとき 20 円を出して品物を買うことができたことを賞賛することで，金額が多くなっても買うことができそうであるという意欲を持たせることができるようにする。		★前時と同じように%を小数に正しく直せば，数が変わっても解けそうであることに気付くことができるようにする。
(2) 振り返り （3分）	集団	**◎それぞれの学習について，教師からの評価を聞き，学習したことを交流したり互いのがんばりに気付いたりする。** ○自分のがんばったことや，できるようになったことを発表する。 ★本時の学習内容や活動を価値付け，活かしてみようという意欲を持つことができるよう，評価する。					
		★自分ががんばったことを話すことにより，本時学習したことを振り返ることができるようにする。	★友達の発表に対して，聞く姿勢をとり発表後には拍手をして，互いの活動を認めることができるようにする。	★自分ができるようになったことや，これからがんばっていきたいことを発表することで次への意欲付けにつながるようにする。	★自分ができるようになったことを話すことで，本時学習したことの達成感をもつことができるようにする。	★自分ができるようになったことを話すことで，本時学習したことの達成感をもつことができるようにする。	★自分ができるようになったことや，これからがんばっていきたいことを発表することで次への意欲付けにつながるようにする。

３　具体の評価規準

子ども	**具体の評価規準と（－）の際の対処**	
A	（＋）の規準	199 円までの金額で，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせてお金を出すことができる。
	（－）の際の規準	位ごとに確認し，教師と共に数える学習に取り組む。
B	（＋）の規準	199 円までの金額で 100 円，10 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。
	（－）の際の規準	位ごとに確認し，教師と共に数える学習に取り組む。
F	（＋）の規準	699 円までの金額で，500 円，100 円，50 円，10 円，5 円，1 円を組み合わせて，お金を出すことができる。
	（－）の際の規準	50 円，5 円を区別してお金を出すことができるようにする。
C・E	（＋）の規準	定価が 15 円のとき 20 円を出しておつりをもらう場合のお金の出し方を求めることができる。
	（－）の際の規準	10 円の位に目を向けるように促すことにより，10 円単位に 1 をたして，代金を求められるようにする。
D	（＋）の規準	定価の 90%までの金額を求めることができる。
	（－）の際の規準	%を数に直す時に確実にできるように，100%を 1 とみることを確認する。